

|        |   |
|--------|---|
| 研究課題   | 世界で通用する英語力の育成   |
| 副題     | ～カラオケ English と CLIL 授業（内容言語統合型学習）を柱として～  |
| キーワード  | 英語 CLIL 小学校   |
| 学校/団体名 | 私立プノンペン日本人学校  |
| 所在地    | 〒120802 No. 205B, Street Lum, Group 5, Village Toek Thla, Sangkat Toek Thla, Khan Sen Sok, Phnom Penh, Cambodia |
| ホームページ | <a href="https://jspp.tv/">https://jspp.tv/</a>   |

## 1. 研究の背景

プノンペン日本人学校では児童生徒数が減少する傾向が続いている。日本人学校は私立学校として運営されており、児童生徒数が減少すると経営が厳しくなる。カンボジア在留の邦人数は現在 3215 人で 2015 年の開校時の 2494 人より 28%増加しており、日本人の数自体が減少しているわけではない。では日本人の児童生徒がどの学校を選択しているかという点、プノンペンにあるインターナショナルスクールなのである。せっかく外国に赴任したのだから、インター校で英語を習得させて、日本に帰国したい。そのように考える保護者が多く、たくさんのインターナショナルスクールに日本人が在籍している。ただ、土曜日のみ開催しているプノンペン補習授業校の児童数の伸びも著しく、保護者が英語も日本の教育も大切だと考えていることが数の推移からうかがえる。

日本人学校が今後も存続していくためには、児童に対して日本の優れた教育を提供することと、保護者が納得する英語力をつけさせることが大切だと考えた。インター校のように英語で全ての授業を展開することはできなくても、英語に関する取り組みを様々に行い、聞ける・話せる、真の英語力を持った児童を育成する。そして保護者・児童から選ばれる日本人学校を目指し、本研究を進めていくこととする。

## 2. 研究の目的

本研究は今年度で 2 年目となる。昨年度はロイロノートによる英語の宿題の導入、インターナショナルスクールとの英語を使った交流、日本やグアムの学校とのオンライン英語交流を通して、児童の英語力を向上させてきた。昨年度の分析より、毎日英語に触れる事、英語を使う機会を多く持つ事が児童の英語力を伸ばさせていくことが明らかになった。そこで、今年度は昨年度の取り組みに「カラオケ English」と「CLIL（内容言語統合型学習）」を追加し、この二つの取り組みが児童の英語力向上にどのように寄与していくのかを研究する。また、日本の学習指導要領に則った教育内容と標準時数のもとで授業を行っている日本人学校でも、取り組みを工夫したり、英語を話す機会を意図的に提供したりすることで、児童の英語力が向上していくことを示し、この実践が広く日本の学校に広がり、日本の学校の英語力が向上していくことを目指す。

## 3. 研究の経過（今年度の取り組みに関するものは太字）

| 月  | 取り組み内容   | 評価の方法  |
|----|--|--|
| 4  | ○英語ソフトウェア「カラオケ English」を使った毎日の宿題の開始<br>○English ability test (4月分)の実施  | ○カラオケ English の実施回数。児童振り返り<br>○昨年度との比較                               |
| 5  | ○G4-G6 週 1 回の CLIL (内容言語統合型学習) 授業のスタート<br>○カラオケ English 修了者表彰式 (これより毎月実施)<br>○ロイヤルプノンペン大学英文学科学生との週 1 回の英会話授業スタート<br>○G4,6Australia international スクールとの交流<br>○G4 グアム日本人学校とのオンライン英会話<br>○保護者による月 1 回の Storytelling スタート | ○単元テストと児童振り返り<br><br>○観察記録<br><br>○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○観察記録        |
| 6  | ○G1,2,5 インターナショナルスクール幼稚園との交流   | ○児童振り返り  |
| 7  | ○English ability test (7月分)の実施<br>○CLILUnit1 テスト実施   | ○昨年度との比較<br>○テスト結果、アンケート   |
| 9  | ○G4,5 大阪府小学校とのオンライン英会話<br>○G5 台北日本人学校との CLIL 学習発表会   | ○児童振り返り<br>○児童振り返り   |
| 10 | ○G1-G6Singapore Cambodia International School との交流会<br>○G4,5 大阪府小学校とのオンライン英会話  | ○児童振り返り、相手校児童アンケート<br>○児童振り返り  |
| 11 | ○G1,2 インターナショナルスクール幼稚園との交流<br>○G5 台北日本人学校との CLIL 学習発表会<br>○G3 北海道小学校との英語発表会  | ○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○児童振り返り  |
| 12 | ○G5CLIL(Pizza4P's)校外学習実施<br>○G4 グアム日本人学校英語学習交流会<br>○G4,5 大阪府小学校とのオンライン英会話<br>○G3 台北日本人学校英語学習交流会<br>○English ability test (12月分)の実施<br>○CLILUnit2 テスト実施   | ○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○昨年度との比較<br>○テスト結果、アンケート |
| 1  | ○G4,5 大阪府小学校とのオンライン英会話<br>○G3 台北日本人学校英語学習交流会<br>○G6CLIL 久留米市の小学校との英語交流   | ○児童振り返り<br>○児童振り返り<br>○児童振り返り  |
| 2  | ○English ability test (2月分)の実施   | ○昨年度との比較   |

#### 4. 代表的な実践と分析方法

##### (1) 2024 年度の代表的な実践

今年度の代表的な実践は以下の2つである。その他の実践については昨年度と同じく実践を

積み重ねており、研究の経過として記入済みである。

#### ①カラオケ English（英語ソフトウェア）

昨年度の研究ではロイノートを導入し、通常授業の最後にリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの宿題を出して力を高めた。しかし、週1回または2回の授業後の宿題では、英語に触れない日が多く、英語の学習時間が不足していた。また宿題を作成する教員の負担も大きかった。そこで今年度は株式会社 REKIDS 社が提供している「カラオケ English」というソフトを契約し、毎日の宿題として児童に課し、毎日英語に触れる環境を作り出した。「カラオケ English」には小学生用のコースが6つ、中高生用のコースが5つ用意しており、一つのコースにつき、概ね80ほどのレッスンがある。毎日昼休憩の時間に担当者が「カラオケ English」の達成状況を確認し、出来ていない児童には声掛けを行い、毎日のルーティンとして定着するよう取り組んだ。また児童のモチベーションを維持するために、各コース修了者には校長から毎月の集会で賞状が授与されるシステムを構築した。毎日英語に触れるため1年間の目標数を365回と設定し、365回クリアした児童にも別途賞状を授与するように設定し取り組みを行った。

#### ②CLIL 授業（内容言語統合型学習）

昨年度の研究から、世界で通用する真の英語力を獲得するためには、英語を使う機会を多く持つことが大切だと考えた。そこで2024年度は日本 CLIL 教育学会会長（上智大学教授）の指導のもと、4年生から6年生に CLIL を導入することに決めた。CLIL とは授業内で、社会、理科、算数などの教科内容を英語で学ぶとともに、その授業で必要な単語、文法事項についても同時に学ぶシステムである。インター校で行われているイマージョン教育では、教科内容全てを英語で指導し、単語や文法事項などを学ぶサポートはない。そのため日本人学校への導入は難しいと考えた。CLIL は通常の英語教育とイマージョン教育との中間にあたり、英語力を伸ばしたい日本人学校のカリキュラムに適合すると考えた。CLIL は年間20時間の実施とし、4年生から6年生までの総合的な学習の時間の一部を CLIL とし運用することとし、各担任から同意を得てスタートした。

CLIL Unit1 の4年生では「世界の農業について知ろう」という単元を設定した。この中には、社会、理科、算数の既習事項を入れ込んだ。3年生で学んできた、社会「農家の仕事」理科「植物の育ち方」、4年生で学んでいる算数「1億より大きい数を調べよう」の要素を入れ込んだ授業設定とした。5、6年生も同じような形で設定し、基本は既習の教科書の内容とし、そこに児童が住んでいるカンボジアの事や国際的に考えられる視点を入れ込み、議論が多く起こり、英語を話さなければならない状況を意図的に作り出した。5年生は「暑い地域に住む人々の生活の秘密について知ろう」、6年生が「気候変動が及ぼす影響について考えよう」という単元を設定し、授業を進めた。成果目標としては、各単元でのテストで70パーセント以上を取ることを目標とした。

## （2）分析方法

「カラオケ English」、「CLIL」の導入が、児童の英語力にどのように寄与しているのかを確かめるため、以下の方法で分析を進めた。

①English ability test

本校では2023年度4月より English ability test を4,7,12,2月に行っている。テストは2つのパートに分かれている。一つ目は英会話力測定テストであり、ALT との1対1の英会話を行い、会話力をAからDで記録している。ALT については2023年度より同じ人物がテストを担当しており、以下の評価基準に従い、評価を行っている。二つ目のリスニング力測定テストに関しては、英検の第1部のリスニング問題の10問を活用している。テストの中で70点以上をクリアできたものは、次回は次の級へと進級し、また2回続けて60点以下であったものは一つ下の級へと下がって受験するシステムとした。

**Conversation Level**

|          |  |
|----------|--|
| <b>A</b> | Student is engaged in continuous conversation and asks questions. (Quite fluent) |
| <b>B</b> | Student can give answers smoothly.   |
| <b>C</b> | Student can give answers to some questions.                                      |
| <b>D</b> | It is difficult for student to give an answer.                                   |

図1

②児童振り返りシート

カラオケ English の宿題、CLIL 授業が児童の英語力にどのように寄与しているのかを児童自ら振り返らせるため、7,12月に児童の振り返りを実施した。この中では、UPした、変わらなかった、DOWNした、の3つの項目を用意し、選択した理由をそれぞれ記述させた。

5. 研究の成果

(1) 数値目標に対しての達成度

本研究では2つの数値目標を設定し、研究を進めた。①「カラオケ English」を年間365回行うこと②CLILの単元テストにおいて70点以上をクリアすることである。以下が数値目標に対する結果である。

①カラオケ English

平均受講回数：275回

②CLIL 単元テスト結果 (70点以上達成率)

Unit1

4年生：100% (8人中8人) 5年生：67% (6人中4人) 6年生：100% (7人中7人)

Unit2

4年生：90% (10人中9人) 5年生：60% (5人中3人) 6年生：67% (6人中4人)

(2) 自己評価

①カラオケ English で英語力はUPしましたか。

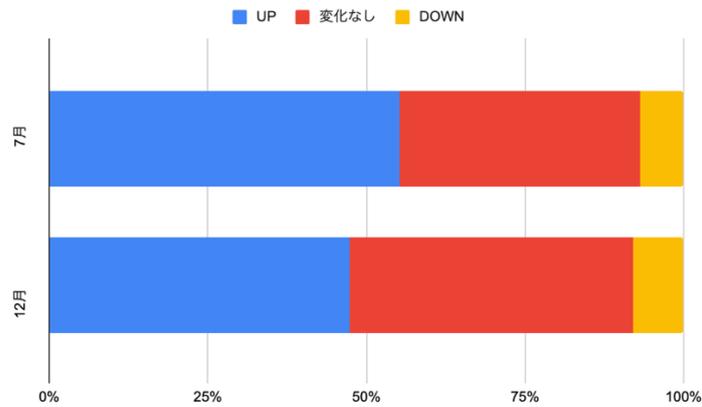


図 2

【児童の意見】

7月

- UP ・前より英語が覚えやすくなった。 ・出てきた単語を会話で使うことができた。  
変化なし ・前から英語はできていて変化はなかった。 ・知っている言葉が多かった。  
DOWN ・簡単すぎた。 ・知っていることばかりだった。

12月

- UP ・何回も繰り返し練習でき力がついた。 ・たくさんの文法を覚えることができた。 ・分からない英語がわかるようになってきた。 ・毎日やっているので身につけているのがわかる。  
変化なし ・文法重視で、日常会話では使いにくい。 ・レベルが高いものを入れて欲しい。  
DOWN ・レベルを上げて簡単だった。 ・学ぶ中で英語がごちゃごちゃになってしまった。

②CLIL 授業を通して英語力はUPしましたか。

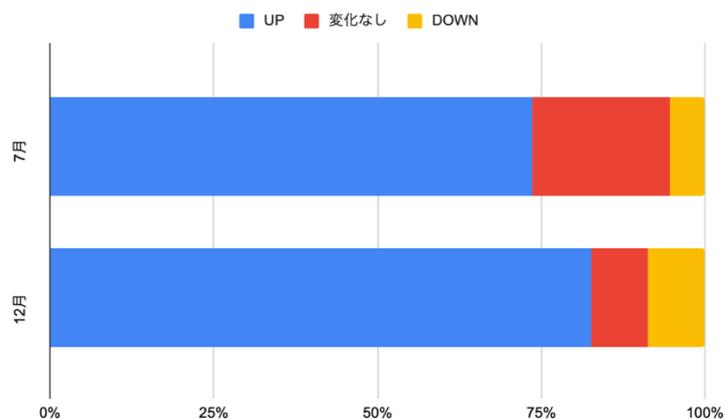


図 3

【児童の意見】

7月

**UP** ・文法以外にも自然に使う言葉が学べた。・自分のレベルに合っていた。・単語力がつき、友達とも協力できた。・様々なことが知れて楽しかった。・英語をたくさん話すことができた。  
**変化なし** ・英語しかなく、難しかった。・他の教科の学習もしたかった（図工など）  
**DOWN** ・分からないところが多くあり、難しかった。

12月

**UP** ・難しかったけど、意味を理解でき、力になった。・プレゼンテーションを作る中で、英語力を上げることができた。・英語をたくさん話すことができた。・英語での校外学習もあり、英語力が上げることができた。  
**変化なし** ・授業についていけなかった。・体感で変わった感じはしなかった。  
**DOWN** ・わからないことが多すぎた。

(3) English ability test 結果

①リスニング力

|          | 英検<br>準1級 | 英検<br>2級 | 英検<br>準2級 | 英検<br>3級 | 英検<br>4級 | 英検<br>5級 | 級なし |
|----------|-----------|----------|-----------|----------|----------|----------|-----|
| 2024年4月  | 0         | 3        | 5         | 10       | 3        | 1        | 6   |
| 2024年12月 | 1         | 6        | 8         | 4        | 3        | 2        | 4   |

図4

- 1年生から3年生まででUPした児童 10人中3人(30%)  
 (途中転入児童はこの数値には含まない)
- 4年生から6年生まででUPした児童 18人中13人(72%)  
 (途中転入児童はこの数値には含まない)

②英会話力

|          | A  | B | C  | D |
|----------|----|---|----|---|
| 2024年4月  | 10 | 8 | 9  | 1 |
| 2024年12月 | 10 | 8 | 10 | 0 |

図5

- 1年生から3年生まででUPした児童 5人中1人(20%)  
 (4月からのA継続者除く。途中転入児童はこの数値には含まない)
- 4年生から6年生まででUPした児童 12人中4人(30%)  
 (4月からのA継続者除く。途中転入児童はこの数値には含まない)

#### (4) 結果の分析

(1) の数値目標に対しては、カラオケ English の平均受講回数は 275 回という結果となった。1年間の登校日数が 197 日ということから考えると、児童一人ひとりが土曜日、日曜日も含めてしっかりとレッスンを行うことができた。ただ、夏・冬の長期休みになるとレッスンを休んでしまう傾向があり、365 回に届かなかった児童が多かった。365 回をクリアした児童は 6 人となった。CLIL テストに関しては概ね満足できる結果であった。Unit2 においては、難易度を上げたため、達成率が下がってしまったが、残りあとわずかクリアというところまで、ほとんどの児童が到達できていた。

(2) の自己評価に関して、カラオケ English の振り返りを見てみると、約半数の児童が英語力の伸びを実感できていた。振り返りからは、「前より英語が覚えやすくなった。」「出てきた単語を会話で使うことができた。」など、毎日の練習の積み重ねで英語力が身につく、英会話授業や交流活動で、学習したことを実践できたようである。しかし 12 月になるとその数字が少し下がる傾向があった。児童の意見を見てみると「簡単だった」「文法重視で、日常会話では使いにくい」というものがあった。この 1 年間を通し、児童の英語力が身につく、シャドーイングだけでは満足できず、相手がある英会話を求める児童も多くなってきている。CLIL に関しては理想的な結果となった。教科を英語で学ぶということは児童にとって刺激的であり、また英語で自分の考えを説明するということが、今までインプットしてきた英語力をアウトプットする良い機会になったようである。CLIL における「変化なし」「DOWN した」の意見には、難しく理解できなかったとの意見もあったので、来年度に向けて、サポート体制を充実させていくことが大切である。

最後に (3) の English ability test の結果を見てみると、リスニング力、英会話力ともに上昇させることができ、今回の「カラオケ English」のソフトウェアの導入、CLIL 授業の創設が児童の英語力向上に大きく貢献したことがわかる。リスニング力、英会話力ともに CLIL 授業を同時実施した、4 年生以上の伸びが大きく、CLIL と「カラオケ English」の二つを組み合わせることで、児童のリスニング力、英会話力を最大限に伸ばすことができたものと思う。特にリスニング力に関しては、高校レベル（英検準 2 級～準 1 級相当）に達している児童が全体の半数以上（28 人中 15 人）に達している。今後はリスニング力よりも伸びが鈍化していた英会話力をどう向上させていくかが課題となる。

#### 6. 今後の課題と展望

結果の分析から、今年度実施した「カラオケ English」「CLIL（内容言語統合型学習）」の導入により、児童の英語力を大きく向上させることができたことがわかった。今後の課題は 3 つである。1 つ目は長期休業中を含めた毎日の英語レッスン受講の実現。2 つ目は「カラオケ English」や「CLIL」において、簡単、難しいといった児童のレベル差に合わせた授業や宿題の実現。3 つ目は英会話力をどう向上させていくかである。

1 つ目の長期休業中を含めた英語レッスンの受講については、来年度保護者の協力を得て、長期休業中の受講の継続をお願いしていく。「カラオケ English」は Web ブラウザ上で動いており、

世界どこからでもログイン可能である。旅行先や自宅での受講を促し、児童の英語力の向上を図る。

2つ目の児童のレベルに合わせたソフトウェアや CLIL 授業の提供に関してである。「カラオケ English」は小学校レベルから高校レベルまでのレッスンが用意されており、決して簡単なわけではない。児童が簡単だと感じた要因としては、レベル選択を児童に委ねていたことにより、自分のレベルより簡単なレベルに取り組んでしまい、新しい英語に触れられず、伸びを実感できなかったことが要因と考えられる。来年度はレベル選択に関して、教員が関与し、児童のレベルを管理することにしていく。また児童の中には、文法ではなく英会話をしたい、相手と自然と話せるようになりたいとの意見もあった。来年度は、英会話に特化したソフトの導入も進めていくこととする。CLIL 授業におけるレベル差に関しては、本年度初めての導入ということで、基本的に英語を重視し、日本語を極力使わないように授業展開を行った。来年度は ALT と日本人教諭がそれぞれの役割をしっかりと分け合い、サポート体制を充実させる。そして全ての児童が成長を感じられるプログラムへと進化させていく。

3つ目の英会話力の向上に関しては、4年生から6年生に向けて「カラオケ English」とは別の AI 英会話アプリの導入を検討中である。相手がある環境を作り出すことで、会話にも慣れ、英会話力の向上を目指していく。

## 7. おわりに

この2年間の研究の積み重ねにより、児童の英語力は大きく向上し、児童自身も自分の英語力に自信を持てるようになった。特に英会話授業では、外国人を前にしても、緊張せず普段のままに会話することができるようになった。この2年間研究を共に行ってきた ALT も、研究の成果に大きな手応えを感じているようである。2年前の研究スタート時は英会話が全くできず会話テストで D を取っていた児童が、この2年間で英会話力を伸ばし、B を獲得できるまでに成長した。ALT からは、毎日英語に触れること、取り組みを継続することの大切さを痛感しているとの言葉をもらった。また校長は、英語力そのものの向上はもちろんであるが、児童が目標を持ち、前向きに学習に取り組めるようになっていくと、児童の学習に取り組む姿勢の向上を挙げている。保護者からも、英語力が向上してきたとの声をいただくことが多くなってきている。

2年間の研究で大切にしてきたことは、英語に毎日触れさせること、英語を使う機会を意図的に作り出すこと、その二つである。日本では、「英語嫌いが増えている」、「英語力に関して二極化が進んでいる」という話も聞く。今回本校で行った実践は、文部科学省が定めている標準時数の中で行っているものであり、日本の公立学校ですぐにでも使えるものとなっている。この実践が広く日本の学校で広がり、日本の小学生の英語力が伸長し、英語を使いながら世界で活躍する日本人がこれから増えていくことを願う。また、今回の結果をプノンペン日本人学校の保護者や入学を検討している保護者に広く周知し、日本人学校の入学者数が増加するように努めていく。

最後に研究を進めるにあたり、的確なアドバイスをいただいたサポートチームの長谷川先生をはじめ、メンバーの皆さんに感謝を申し上げます。また2年間にわたり、本校に助成をいただきましたパナソニック教育財団の皆様、ありがとうございました。